



もし金属アレルギーと言われたら？

●金属アレルギーの症状●

接触性皮膚炎は、アクセサリー、時計など金属製品が接触した部分に発症するタイプです。痒みがあり、その部分は赤くなります。また、小さく腫れたり、水ぶくれができたりもします。接触した部分に症状があらわれますので、アレルギーやその原因となるものが分かりやすいのが特徴です。

全身性接触皮膚炎は、食品、薬品、歯科治療に使用した金属などからのわずかな金属が血流によって体の中をめぐり、アレルギーの反応を引き起こすタイプです。離れた場所からの皮膚や粘膜に水虫やじんましんのような症状が出ますので、他の病気との区別をつけづらいのが特徴です。

●歯科での金属アレルギー●

歯科治療で使われている金属の多くは、**ほぼ無害**とされています。しかし、口の中は唾液があり、金属の成分が溶け出しやすい環境にあります。

歯科治療で使用されている金属からおこるアレルギーの場合、口の中の粘膜や全身の皮膚、さらにはその両方に発症する場合があります。

とはいえ、**金属アレルギー全体の中で、歯科治療で使用された金属が原因となっているケースはかなりまれ**のようです。



歯科での金属アレルギーの検査と対処法



- ✓ 皮膚科で治療しても、なかなか治らないところがある
- ✓ アクセサリーなど金属製品にかぶれやすい
- ✓ 歯科治療を受けた後に症状が現れたのではないかと思う

以上三つの点が当てはまり、金属アレルギー疑われた場合には、歯科とアレルギー専門の皮膚科が連携した検査や治療などを受ける必要があります。

「金属をなくせば治る」と思いこみ、歯科治療で取り付けた金属を外す治療を受けるだけでは治らない場合もあります。

たとえアレルギーになりにくい体質であっても、身に付けているものを点検し、

アレルギーが起こりにくい環境を作ることが大切です。